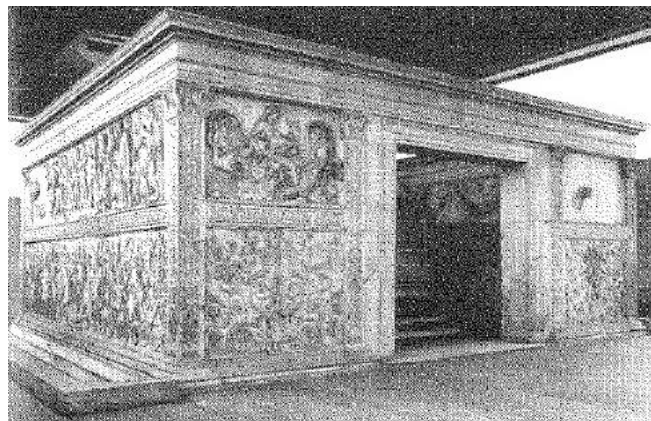


世界史 B

(解答番号 ~)

第 1 問 世界史上の帝国や王朝の支配について述べた次の文章 A～C を読み，下の問い(問 1～9)に答えよ。(配点 25)

A 共和政末期，古代ローマは未曾有の内戦を経験した。その後に成立した新体制の下で，その①支配の正統性を主張するために重視されたのが「平和」であった。首都ローマでは，戦争の終結時に閉じられるとされたヤヌス神殿の扉が数百年ぶりに閉じられたほか，さらに「平和の祭壇（アラ=パキス）」が建設され（下図参照），視覚的にも「平和」の到来がアピールされたのである。帝政の開始以来およそ 200 年におよぶ繁栄の時代は②「ローマの平和」と呼ばれ，③ローマ帝国の安定した支配の下，帝国各地で数多くの都市が栄えた。しかし，3 世紀になると，ササン朝ペルシアやゲルマン人の侵入が度重なり，「平和」は再び失われていくことになる。



「平和の祭壇(アラ=パキス)」

問 1 下線部①に関連して、支配の仕組みについて述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 1

- ① ビザンツ帝国で、領邦教会制が成立した。
- ② 金で、猛安・謀克という制度が用いられた。
- ③ ティムール朝で、マンサブダール制が整えられた。
- ④ 高麗で、骨品制がとられた。

問 2 下線部②の時期に起こった出来事について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① ペテロやパウロによって、キリスト教が広められた。
- ② 『ローマ法大全』が編纂^{へんさん}された。
- ③ ローマ帝国とインドとの間で、モンスーン(季節風)を利用した交易が行われた。
- ④ トラヤヌス帝の下で、ローマ帝国の版図が最大となった。

問 3 下線部③に関連して、ローマ帝国の支配下にあった諸都市のその後の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① フィレンツェは、綿織物工業で栄え、ルネサンスの中心となった。
- ② アドリアノーブルは、ガズナ朝によって征服された。
- ③ リスボンは、インド航路の開拓により、香辛料貿易で繁栄した。
- ④ イェルサレムは、第 4 回十字軍によって占領された。

B ④ブリトン人の英雄伝説を起源とする『アーサー王物語』は、12世紀前半に成文化されると、ヨーロッパ中に広まった。これを政治的に利用したのが、⑤イングランド王ヘンリ2世である。彼の治世には、ラテン語からの翻訳をはじめとするアーサー王関連作品が書かれた。それらの中に描かれた、ブリテン島のみならず北欧やガリアまでを支配したアーサー王の姿は、相続や婚姻を通じて⑥広大な領土を治めることになったヘンリ2世にとって、王権の権威付けのために望ましいものであった。さらに聖杯伝説や宮廷風恋愛などの要素も加えられた『アーサー王物語』は、その後、広く愛好されることになる。

問4 下線部④に関連して、英雄伝説や叙事詩について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 4

- ① 『ラーマーヤナ』は、ペルシアで成立した。
- ② 『イリアス』（『イーリアス』）は、アラブ文学の作品である。
- ③ 『ローランの歌』は、カール大帝の時代を題材としている。
- ④ 『ギルガメシュ叙事詩』（『ギルガメシュ物語』）は、古代エジプトで成立した。

問5 下線部⑤の人物について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

- ① アングロ=サクソン七王国を統一した。
- ② プランタジネット朝を開いた。
- ③ 大憲章(マグナ=カルタ)を認めた。
- ④ シモン=ド=モンフォールによる反乱を招いた。

問 6 下線部⑥に関連して，帝国について述べた文として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

6

- ① インカ帝国で，記録・伝達手段として，キープ(結縄)が用いられた。
- ② 清で，満州人(満洲人)からなる緑営が編制された。
- ③ オスマン帝国で，アブデュル=ハミト2世が，ギュルハネ勅令を出した。
- ④ ロシア帝国で，アレクサンドル1世が，十月宣言(十月勅書)を出した。

C 中国では、⑦歴代様々な王朝が興亡を繰り返してきた。こうした王朝の興亡史を記す⑧中国の歴史叙述では、王朝交替に疑義があったり、同時に複数の王朝が並び立った場合に、いずれの王朝の支配を正統とするかという正統論が問題となった。宋代になると、正統論はとくに盛んとなる。南宋で編纂された『資治通鑑しじつがん綱目』という⑨歴史書は、例えば三国時代は蜀を正統とするなど、歴代王朝の正統・非正統の区別を明確にした。これは、華北を失った南宋の正統性を強調しようとするものだった。この正統史観は、その後、日本を含め東アジアに大きな影響を及ぼすことになる。

問7 下線部⑦に関連して、アジアにおける王朝や民族の興亡について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① ホスロー1世が、大月氏を滅ぼした。
- ② 冒頓单于の下、柔然が全盛期を迎えた。
- ③ ヴァルダナ朝が、南インドを統一した。
- ④ ヒヴァ=ハン国が、ロシアの保護国となった。

問8 下線部⑧について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 宋と大モンゴル国(モンゴル帝国)との間で、澶淵の盟が結ばれた。
- ② 唐代の両税法で、土地を支給された成人男性に税が課された。
- ③ 春秋時代の有力諸侯は、覇者と呼ばれた。
- ④ 長江下流域が、明代に「湖広熟すれば天下足る」と称された。

問 9 下線部⑨について述べた次の文 **a** と **b** の正誤の組合せとして正しいものを、
下の①～④のうちから一つ選べ。

9

a 班固が、編年体で、『漢書』を著した。

b ラシード=アッディーン(ラシード=ウッディーン)が、イル=ハン国で、『集史』を著した。

- | | | |
|---|-------------|-------------|
| ① | a —正 | b —正 |
| ② | a —正 | b —誤 |
| ③ | a —誤 | b —正 |
| ④ | a —誤 | b —誤 |

第2問 宗教や宗教集団について述べた次の文章 A～C を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 25)

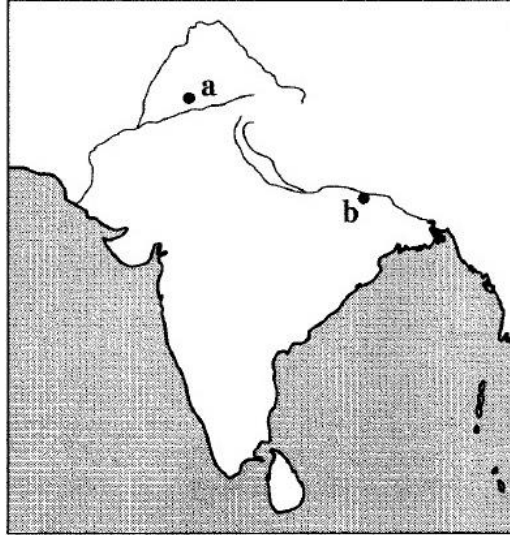
A ①シク教は、西北インドの農村地域を中心に広がった。その教団はムガル帝国との対立を通して武装化し、18 世紀には、ミスルと呼ばれる複数の共同体が形成された。19 世紀初頭に、ランジート=シングがそれらのミスルを統合して、ラホールを②首都とするシク王国を築いた。彼は、シク教徒だけではなくムスリムやヒンドゥー教徒を重用し、さらにヨーロッパ人③将校を雇い入れて近代的な軍隊を整備して、周辺地域を次々と征服した。シク王国は、シク教徒の組織に支えられながら、多様な人々を取り込み、一大政治勢力となったのである。

問1 下線部①について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① ナーナクによって創始された。
- ② シヴァ神を主神とする。
- ③ ヒジュラ(聖遷)の年を紀元とする暦を用いる。
- ④ 中国で景教と呼ばれた。

問2 下線部②に関連して、インド最初の統一王朝であるマウリヤ朝の都の名と、その位置を示す次の地図中の **a** または **b** との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 11



- ① ハラッパー— **a**
- ② ハラッパー— **b**
- ③ パータリプトラ— **a**
- ④ パータリプトラ— **b**

問3 下線部③に関連して、軍の指揮官について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① ハンニバルは、イッソスの戦いで敗れた。
- ② 司馬炎は、蜀を建てた。
- ③ ゴードンは、常勝軍を率いた。
- ④ 劉永福は、鉄騎隊を組織した。

B 16 世紀のヴェネツィアには多くの④ユダヤ教徒(ユダヤ人)が移り住み、彼らとキリスト教徒である一般市民との間に様々な問題が生じるようになった。そのため、1516 年に、市内にユダヤ人居住区(ゲットー)が定められ、すべてのユダヤ人はそこに居住させられた。彼らは当局の厳しい監視の下に置かれたが、同時に安全を保証され、⑤商業や金融業などに従事した。ユダヤ人高利貸しシャイロックが登場する⑥ウィリアム=シェークスピア(1564～1616 年)の『ヴェニスの商人』には、こうした当時の社会状況が反映されている。

問 4 下線部④の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① バルフォア宣言は、ユダヤ人のシオニズムを批判した。
- ② モーセは、ユダヤ教の戒律主義(律法主義、形式主義)を批判した。
- ③ ユダヤ教徒は、唯一の神アフラ=マズダを信仰している。
- ④ ドレフュス事件は、ユダヤ系軍人に対する冤罪^{えんざい}事件である。

問 5 下線部⑤について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 乾隆帝は、ヨーロッパ船の来航を泉州に限定した。
- ② イスラーム世界で、隊商宿(キャラヴァンサライ、キャラバンサライ)が整備された。
- ③ シャンパーニュ地方は、中世に定期市で栄えた。
- ④ 琉球は、明との間で朝貢貿易を行った。

問 6 下線部⑥の人物が生きた時期に起こった出来事について述べた文として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

15

- ① ラダイト運動(機械うちこわし運動)が起こった。
- ② スチュアート朝が成立した。
- ③ ウォルポールが首相になった。
- ④ グラッドストンが，アイルランド自治法案を提出した。

C アラビア半島では、18 世紀に⑦イスラームの改革を唱える運動が起こった。神
秘主義や聖者崇拝を墮落したものとみなして「預言者の教えに戻れ」と主張する
ア派は、同半島の中央部に拠点を持つイ家と同盟を組んで王国を建国し
た。イスラームの改革運動は他の地域にも広がり、19 世紀になると、反植民地運
動に組み込まれるケースも見られた。イギリスによって⑧占領されたエジプトや
スーダンでもムスリムの抵抗運動が起こり、これらの地域での滞在経験を持つイ
ギリス人作家 W. S. ブラントは、『英国エジプト占領秘史』などを著して、抵
抗運動を起こしたムスリム諸集団に同情を寄せた。

問 7 文章中の空欄アとイに入れる語の組合せとして正しいものを、次の
①～④のうちから一つ選べ。 16

- | | | |
|---|----------|--------|
| ① | アーワッハーブ | イーハーシム |
| ② | アーワッハーブ | イーサウード |
| ③ | アー十二イマーム | イーハーシム |
| ④ | アー十二イマーム | イーサウード |

問 8 下線部⑦に関連して、宗教に関わる出来事について述べた文として正しいも
のを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① エフェソス公会議で、ウィクリフが異端とされた。
- ② バングラデシュで、イスラーム同盟(サレカット=イスラーム)が、独立運
動を展開した。
- ③ 隋で、白蓮教徒の乱が起こった。
- ④ カージャール朝で、バーブ教徒が蜂起した。

問 9 下線部⑧について述べた次の文 **a** と **b** の正誤の組合せとして正しいものを、
下の①～④のうちから一つ選べ。

18

a フランスは、ドイツの賠償金支払い不履行を理由に、ルール占領を強行した。

b アメリカ合衆国は、北緯 38 度線を境として、朝鮮半島の北半部を占領下に置いた。

① **a** — 正 **b** — 正

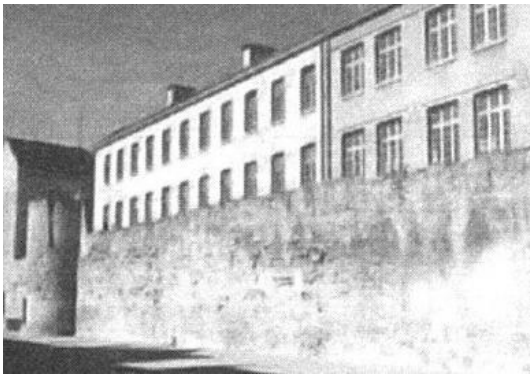
② **a** — 正 **b** — 誤

③ **a** — 誤 **b** — 正

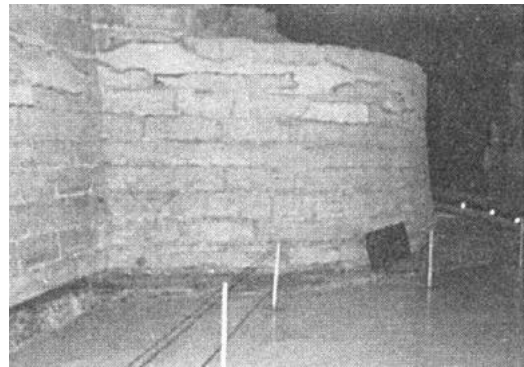
④ **a** — 誤 **b** — 誤

第3問 世界史上の都市とその建造物について述べた次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A パリには、①中世の遺跡が数多く残されている。例えば、12世紀末から13世紀初頭に築かれた石造の市壁は、中世以来の幾度ものパリの拡大・改造を乗り越えて、その一部が市の中心部に現存している(下図左参照)。この市壁建設時には、市壁西側と②セーヌ川が接する地点を防衛するためにルーヴル城が築かれた。19世紀後半、当時の③皇帝の号令のもと、その基礎部分がルーヴル宮の中庭から発掘された。中世のルーヴル城の遺跡は、今日、ルーヴル美術館の観覧コースに組み込まれている(下図右参照)。



パリの市壁跡



ルーヴル城址

問1 下線部①に関連して、歴史的建造物について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 慶州の仏国寺は、新羅で創建された。
- ② ポタラ宮は、ジャイナ教の中心(大本山)である。
- ③ クトゥブ=ミナール(クトゥブ=ミナレット)は、ウルグ=ベクによって建造された。
- ④ ピサ大聖堂の斜塔で、パスカルによる物体落下の実験(重力実験)が行われた。

問2 下線部②に関連して、ヨーロッパの河川について述べた次の文中の空欄

アと**イ**に入れる語の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **20**

アの地には、12世紀から14世紀にかけてドイツ人による大規模な植民が行われ、その結果、**イ**などが創設された。

- ① **ア**ーエルベ川以東 **イ**ーブランデンブルク辺境伯領
- ② **ア**ーエルベ川以東 **イ**ーキエフ公国
- ③ **ア**ーエルベ川以西 **イ**ーブランデンブルク辺境伯領
- ④ **ア**ーエルベ川以西 **イ**ーキエフ公国

問3 下線部③に関連して、ヨーロッパの君主について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **21**

- ① フィリップ2世が、カペー朝を創始した。
- ② エリザベス1世が、審査法を制定した。
- ③ クローヴィスは、ヴァンダル人を統一した。
- ④ カルロス1世は、神聖ローマ皇帝に選出された。

B ドレスデンは、17 世紀から 18 世紀前半に④ポーランド王を兼ねたザクセン選帝侯フリードリヒ=アウグスト 1 世(強王)の下で、ザクセン選帝侯国の⑤首都として大きく発展した。この時期に、町の中心部にはツヴィンガー宮殿が建てられ、巨大な石のドームで知られる聖母教会の建設も始まった。しかしドレスデンは、⑥第二次世界大戦中に連合国の爆撃によって大きな被害を受けた。空爆時に崩壊した聖母教会は、戦争による破壊への警鐘として^{はいきよ}廃墟のまま保存されていたが、東西ドイツ統一後に全世界から寄付を募って再建され、現在は「平和のための学びの場」と位置づけられている(下図参照)。



聖母教会の祭壇。十字架は、ドイツ軍の空爆を受けたイギリスの都市コヴェントリーから和解の象徴として贈られたもの。

問 4 下線部④に関連して、東欧や北欧の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 22

- ① ハンガリー王国は、チェック人によって建てられた。
- ② バルト3国は、カルマル同盟を結んだ。
- ③ ポーランドは、ハノーヴァー朝断絶後に、選挙王制(選挙王政)をとった。
- ④ デンマークは、プロイセンに、シュレスヴィヒを奪われた。

問 5 下線部⑤について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① クテシフォンは、アケメネス朝の首都とされた。
- ② コルドバは、サーマーン朝の首都とされた。
- ③ アステカ王国は、テノチティトランを首都とした。
- ④ アッシリアは、テーベを首都とした。

問 6 下線部⑥の時期の出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① フランスで、ブルムが、ヴィシー政権を率いた。
- ② アメリカ合衆国は、ソ連に、武器貸与法を適用した。
- ③ ドイツ軍は、スターリングラードの戦いで勝利した。
- ④ スペインで、バドロオ政権が無条件降伏した。

C 中国最大の⑦都市である上海の外灘^{ワイタン}(バンド)に立ち並ぶ重厚な西欧風建築は、往時の繁栄を今に伝えている。上海の歴史は、中国において商業活動が活発化した⑧宋代に遡り、江南の経済の隆盛とともに、交易拠点として発展してきた。19世紀以降、⑨海外との貿易の中心地となった上海は更なる発展を遂げた。黄浦江をはさんで外灘と相対する浦東^{ほとう}地区に林立する超高層ビル群は、上海が今も中国経済を牽引する都市であることを示している。

問7 下線部⑦について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

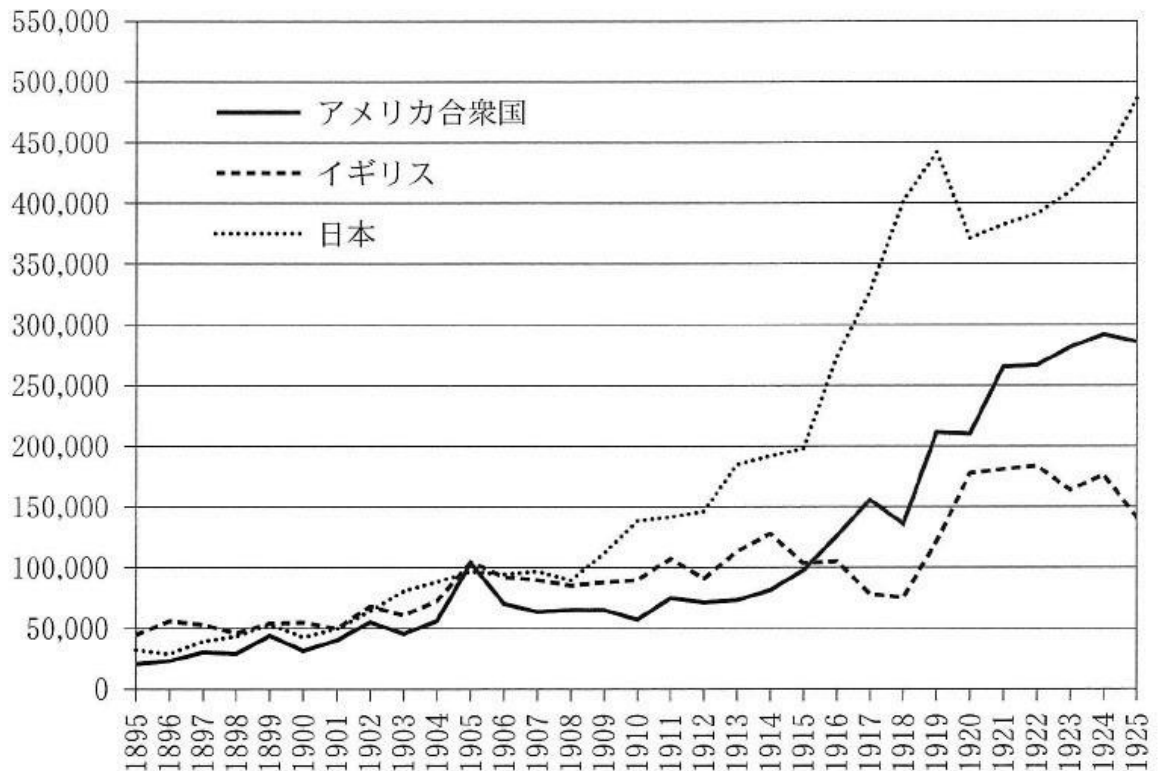
- ① 景德鎮は、陶磁器の代表的な生産地であった。
- ② リューベックは、ロンバルディア同盟の盟主であった。
- ③ モンバサは、アフリカ東岸の海港都市(港市)として繁栄した。
- ④ ポンディシェリは、フランス東インド会社の拠点であった。

問8 下線部⑧に関連して、宋代の新法について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 司馬光が推進した。
- ② 地主や大商人の利益を抑えようとした。
- ③ 西遼に対する防備の強化を目指した。
- ④ 東林派と非東林派との党争を招いた。

問 9 下線部⑨に関連して、次のグラフは、1895 年から 1925 年までの、中国とイギリス・日本・アメリカ合衆国の各国との間の年間貿易総額を示したものである。このグラフから読み取れる内容について述べた下の文 **a** と **b** の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 27

単位：1,000 海関両



(Hsiao Liang-lin (ed.), *China's Foreign Trade Statistics, 1864-1949* より作成)

- a** 第一次世界大戦中に、アメリカ合衆国との間の年間貿易総額が、イギリスとの間の年間貿易総額を上回った。
- b** 五・四運動が発生した年の日本との間の年間貿易総額は、義和団事件が始まった年の日本との間の年間貿易総額の 5 倍以下に留まっている。

- ① **a**—正 **b**—正
- ② **a**—正 **b**—誤
- ③ **a**—誤 **b**—正
- ④ **a**—誤 **b**—誤

第4問 人の移動と戦争との関わりについて述べた次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A 15世紀以降のロシアでは、農奴制を逃れた人々が①南方の辺境に移り住み、狩猟や漁業、牧畜などを生業とした。彼ら移住者が中心となって、自治的な戦士集団が形成されていく。この地へのロシア帝国の支配が強化されると、彼らは自分たちの自由を守るためにしばしば抵抗した。例えば1773年、プガチョフがロシア皇帝を僭称^{せんしょう}し、②反乱を起こしている(下図参照)。反乱軍は圧政からの解放を期待したバシキール人やロシア人農民を味方に引き入れ、一時は大勢力になったものの、2年後、③エカチェリーナ2世により鎮圧された。



捕虜を裁判にかけるプガチョフ(V. ペローフ「プガチョフの裁判」)

問1 下線部①に関連して、人の移動とその影響について述べた次の文 **a** と **b** の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 28

- a** アメリカ大陸に進出したスペイン人は、植民地にエンコミエンダ制を導入した。
- b** ヨーロッパ人が持ち込んだ天然痘(伝染病)は、アメリカ大陸の先住民人口が激減する一因となった。

- ① **a** — 正 **b** — 正
- ② **a** — 正 **b** — 誤
- ③ **a** — 誤 **b** — 正
- ④ **a** — 誤 **b** — 誤

問2 下線部②について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① ベトナムで、西山(タイソン)の乱が起こった。
- ② 漢で、陳勝・呉広の乱が起こった。
- ③ イギリスで、ジャックリーの乱が起こった。
- ④ インドで、ハイドゥ(カイドウ)の乱が起こった。

問3 下線部③の事績について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① リシュリユーを宰相とした。
- ② 十四か条の平和原則を主張した。
- ③ クリミア半島を獲得した。
- ④ インド皇帝に即位した。

B 最初の総力戦となった第一次世界大戦を契機に、④「難民の時代」が始まった。帝国の崩壊や、革命と内戦によって、世界的・国際的問題として難民の存在が浮上し始めたのである。⑤両大戦間期(第一次世界大戦終結から第二次世界大戦開始までの時期)に政治体制の大幅な変動や社会の混乱を経験したヨーロッパでは、多くの人々がそれまで生活していた場所から移り住むことを余儀なくされた。激しい内戦が展開された⑥スペインでは、戦争中から、子どもたちをはじめとする国外への大量の避難民が見られた。スペインを逃れた人々の多くが故国に戻ったのは、1970年代になってからのことである。

問4 下線部④に関連して、次の年表に示した **a** ～ **d** の時期のうち、大量の難民が発生したルワンダ内戦の時期として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

31

a	
1951 年	国連難民高等弁務官事務所の発足
b	
1976 年	国際人権規約の発行
c	
2003 年	リベリア内戦の停戦
d	

① **a**

② **b**

③ **c**

④ **d**

問 5 下線部⑤の時期に起こった出来事について述べた文として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① ブレジネフが，ソ連共産党第一書記に就任した。
- ② イギリスで，フェビアン協会が結成された。
- ③ モンゴル人民共和国が成立した。
- ④ 極東国際軍事裁判が開かれた。

問 6 下線部⑥の歴史について述べた文として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 33

- ① 東ゴート王国の支配下に置かれた。
- ② イスラーム勢力に対して，レコンキスタが行われた。
- ③ ユトレヒト条約で，ジブラルタルを獲得した。
- ④ 人民戦線政府が，スペイン内戦に勝利した。

C 両大戦間期，多数の学者や文化人が故国を離れ，⑦亡命した。音楽家の両親の元で育ったヘルムート＝シュテルンもその一人である。家族とともにたどりついたのは満州（満洲）であった。そしてシュテルンは，日本人指揮者の朝比奈隆が当時客演していたハルビン交響楽団で，音楽家としての第一歩を踏み出した。11年間に⑧中国で過ごした彼は，イスラエルへの移住を経て，旧国籍を再取得することになる。⑨1961年，シュテルンはベルリン＝フィルハーモニー管弦楽団に入団し，第1ヴァイオリンの首席奏者として活躍した。ユダヤ人であったことで苦難の人生を歩まねばならなかった一音楽家は，長い旅の末，生まれ故郷のベルリンに帰りついたのである。

問7 下線部⑦について述べた文として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① ダライ＝ラマ 14 世が，アメリカ合衆国に亡命した。
- ② ジェームズ 2 世が，バラ戦争によって亡命した。
- ③ アインシュタインが，ナチ党の支配から逃れて亡命した。
- ④ 中国から亡命した衛満が，潮海を建てた。

問8 下線部⑧に関連して，20 世紀前半の中国の歴史について述べた文として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① 袁世凱が，中華民国の臨時大総統に就任した。
- ② 浙江財閥が，中国共産党と結んだ。
- ③ 山東で，鉄道国有化に反対する暴動が起こった。
- ④ 北京で，中華民国の成立が宣言された。

問 9 下線部⑨に関連して、冷戦期の出来事について述べた文として正しいものを、
次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① ブルガリアで、ドブチェクが、自由化を推進した。
- ② 東ドイツが、アデナウアーの下で、主権を回復した。
- ③ ソ連が、バグダード条約機構(中東条約機構)に参加した。
- ④ ニュージーランドが、太平洋安全保障条約(ANZUS)に参加した。

【解説】

第 1 問 世界史上の帝国や王朝の支配

A

問 1 正解② (世界史上の支配の仕組み) 1

- ①領邦教会制については P. 194 ①年表内のルター派の解説を参照。ルターはカトリック教会のヒエラルキーと、その頂点に立つ教皇の絶対的権威を否定し、聖書主義・万人祭司主義を唱えた。これを受容したルター派諸侯は各領邦内における教会支配を強めていった。ビザンツ帝国については、P. 139 を参照。
- ②宋代中国を悩ませた契丹・西夏・金の統治については、P. 153 の③で整理したい。金は女真人に対する部族制と漢人に対する州県制を併用した。前者が猛安・謀克と呼ばれる。
- ③マンサブダール制はムガル帝国の統治体制であり、P. 181 の②で詳しく解説されている。全ての官僚に位階と、それに応じた徴税権付の所領が支給された。ティムール帝国は 15 世紀のイランを支配した。P. 176 参照。
- ④半島統一以降の新羅・高麗・朝鮮については P. 174 の表を参照して、統治体制・文化および中国との関係などを比較整理したい。新羅の貴族制的身分制度(骨品制)に対し、高麗以降には、次第に特権化する官僚層(両班)を頂点、奴婢・賤民を底辺とする統治体制・社会体制が確立していく。

問 2 正解② (「ローマの平和」の時期の出来事) 2

「ローマの平和」と呼ばれる時代は、帝政ローマの前半である。P. 90 の年表で五賢帝時代までを確認しよう。

- ①同年表を見ると、イエスの処刑やネロ帝による迫害があり、キリスト教がある程度広まっていることに気づく。P. 94 の年表も参照すれば、キリスト教布教の中で、ペテロ・パウロが殉教したことが確認できる。
- ②P. 92 参照。ローマ法はローマ帝国の拡大とともに万民法の性格を帯び、『ローマ法大全』として集大成される。ただし、これはユスティニアヌスの時代。
- ③季節風交易のルートについては、P. 14～17 の全体地図に詳しい。これを証明する『エリュトウラー海案内記』については P. 158 の②や P. 353 を参照。

- ④P. 90 の年表に明記されている。ただし，大帝国の成立の裏にはゲルマン人やケルト人など被支配民族の屈辱がある。

問3 正解③ (ローマ帝国の支配下にあった諸都市のその後の歴史) 3

- ①フィレンツェは毛織物産業の栄えた北イタリア諸都市の1つであり，北海・バルト海商業圏とも結合して繁栄した。P. 144 の 2 の図と地図 A で確認しよう。経済発展を背景に，メディチ家支配下のフィレンツェがルネサンスの中心地として開花していく様子は，P. 189 に詳しく解説されている。
- ②P. 178 の年表と地図 A で，オスマン帝国がアドリアノーブルを征服し，同地に遷都したことを確認。P. 40 の全体地図でもこの過程を確認できる。ガズナ朝は場所も時代も異なる王朝で，P. 180 の地図 A などを参照。イスラーム勢力のインドへの拡大の契機となった王朝である。
- ③いわゆる大航海時代の先駆けとなったスペイン・ポルトガルの対アジア交易については，P. 182 の年表でその過程を確認することができる。香辛料貿易はムスリム・北イタリア商人を経由する形から，リスボン・アムステルダム・ロンドンなど大西洋側の港湾都市に主導権が移っていく。P. 183 の 3 で整理しておきたい。
- ④聖地への十字軍の経過については P. 142 を参照。第1回十字軍でイェルサレム王国の建国に至るものの，ヴェネツィア商人主導でコンスタンティノーブルを占領した第4回十字軍のように，内部対立あるいは本来の目標を見失う場合も多く，大局的には失敗に終わった。

B

問 4 正解③ (世界史上の英雄伝説や叙事詩) 4

- ①『ラーマーヤナ』はヒンドゥー教の聖典の 1 つである。P. 97 の 2 参照。これが完成するのは仏教とともにヒンドゥー教も発展したグプタ朝時代である。P. 98 の年表で確認したい。
- ②『イリアス』はトロイア戦争などを描いた、ギリシア文学を代表する叙事詩である。P. 84 の 1 参照。P. 78 の人物コラムにある通り、トロイア戦争に関する叙述に興味を持ったシュリーマンが遺跡の発掘に従事し、ギリシア史の謎を解明した。
- ③P. 150 参照。『ローランの歌』は、中世ヨーロッパの騎士道精神に基づく文学作品の代表格である。
- ④P. 70 年表下に掲載。『ギルガメシュ叙事詩』はシュメール人の王を主人公としている。楔形文字の史料としても重要。地域特性と言える洪水についての記述は、旧約聖書にも見られる。

問 5 正解② (イングランド王ヘンリ 2 世の事績) 5

- ②③ヘンリ 2 世はアンジュー伯からイングランド国王に即位し、プランタジネット朝を創始した。P. 147 の地図 B・C を見ればわかる通り、イングランド国王の所領がフランスにも存在するという複雑な状況は、ノルマン朝時代にもすでに生じていたが、ヘンリ 2 世の即位によって大陸側の領土はさらに拡大した。この大陸側の領土を大きく失ったのがジョン王である。P. 148 の年表で確認したい。ジョン王の失政は貴族からの批判を招き、王権を制限するマグナ=カルタ承認に至る。つまり②が正解で、③は誤文である。
- ④の反乱は、マグナ=カルタを無視する国王に対するものだから、ヘンリ 2 世の時代ではない。これは P. 148 の 2 を参照。
- ①については P. 136 の 2 を参照。中世初期のイングランド史はアングロ=サクソン系の王家とデーン人(ノルマン人)の争いが繰り返されるので、しっかり整理したい。

問 6 正解① (世界史上の帝国) 6

- ①インカ帝国はスペインのピサロに征服されるまで、アンデス山系を支配した。優れた石造技術を持っていたことはマチュピチュの遺跡(P. 184 参照)からもよくう

かがえる。また，マヤ文明やアステカ文明と違い文字を持たなかったが (P. 185 の文明比較表参照)，キープと呼ばれる記録手段を有していた。

②清朝では，満州人は八旗と呼ばれる軍事組織に属し特権を与えられた。緑営は漢人による治安維持部隊である。いずれも P. 170 の²を参照。

③P. 242 の¹・²参照。ギュルハネ勅令でタンジマートを開始したのはアブデュル=メジト 1 世。その集大成とも言えるミドハト憲法を停止し，専制体制を復活させたのがアブデュル=ハミト 2 世である。

④P. 264 参照。日露戦争中，血の日曜日事件に端を発する労働者や兵士の蜂起に対し，ニコライ 2 世はウィッテを起用して十月宣言を出し，国会開設など民主化の方向性を示した (実際にはすぐに反動化する)。アレクサンドル 1 世は 1 世紀ほど前の皇帝で，ナポレオン戦争後のウィーン会議に出席した。P. 222 および P. 232 参照。

C

問7 正解④ (アジアにおける王朝や民族の興亡) 7

- ①P. 76 を見て、イラン文明とローマ帝国・中央アジア・インドとの関わりを確認したい。周辺諸国と抗争しながら、東西交易で栄え (P. 77 の[2])、宗教の伝播にも関わった (P. 77 の[3])。ホスロー 1 世は突厥と結んでエフタルを滅ぼすなど、ササン朝の最盛期を現出した。大月氏は、前漢の武帝が対匈奴政策の 1 つとして使者張騫を派遣した国である (P. 111 の[4]参照)。したがって、ホスロー 1 世とは時代が全く異なる。
- ②冒頓単于は匈奴最盛期の王であり、P. 111 に人物コラムがある。匈奴の強勢については P. 13 の全体地図でもイメージしておきたい。また、P. 13～27 の全体地図を順次見て、中国の北方で鮮卑→柔然→突厥と有力遊牧国家が入れかわる様子も確認しておこう。
- ③古代インドの諸王朝の領域については P. 98～99 の地図[A]～[D]参照。ヴァルダナ朝はインド北部を支配した。南インドでは、サータヴァーハナ朝・チョーラ朝・ヴィジャヤナガル王国が有力である。P. 99 の[2]も参照。
- ④クリミア戦争敗北後のロシアはアレクサンドル 2 世のもとで、国内の改革に向かう一方、中央アジア・極東への南下政策を強めていく。P. 233 の地図[C]と[3]の年表で、アレクサンドル 2 世時代にウズベク人 3 ハン国がロシア支配下に入ることを確認したい。

問8 正解③ (中国の歴史) 8

- ①宋と周辺民族との講和については P. 153 の[3]で整理されている。澶淵の盟は遼と結ばれた。金に中国北部を奪われた南宋は、13 世紀にモンゴル勢力に滅ぼされる。P. 152 年表参照。
- ②P. 117 の[6]参照。唐代初期の律令体制は均田制・租調庸制・府兵制の組み合わせになっており、口分田・永業田を給された成人男性が納税と兵役の義務を負った。しかし、貴族による荘園制も同時に発達したため、均田制・租調庸制の維持が困難となり、8 世紀には両税法が施行された。これは、土地・資産の所有に応じて課税するシステムであり、府兵制から募兵制への変更とあわせて律令体制の崩壊を示している。P. 120 の[2]には、租調庸制と両税法の比較表がある。
- ③P. 107 の[2]を参照して、春秋の五覇と戦国の七雄を確認。覇者は天下の覇権を握

っているが、尊王攘夷を唱えており、名目的に周王の権威を尊重していた。

- ④長江流域の穀倉化は江南開発の歴史でもある。P. 154 の³を見て、宋代の「蘇湖熟すれば」と明代の「湖広熟すれば」を確認しておこう。

問 9 正解③ (世界史上の歴史書) ⁹

- a 中国には、歴代王朝の正史を次の王朝が編纂する伝統がある。武帝時代までの正史と言える司馬遷の『史記』と前漢の正史である班固の『漢書』は、紀伝体で記述され、後の正史のモデルともなった。
- b P. 128 の一覧表を見ると、イスラーム文化におけるイラン人の役割の大きさが実感できる。ペルシア語文学はその典型である。ラシード=アッディーンの『集史』も歴史学の大業績と言える。イル=ハン国はモンゴル帝国の一部であったが、イランを支配して、イスラーム化していった(P. 126 の地図^Dや P. 127 の⁴など参照)。

第2問 世界史上の宗教や宗教集団

A

問1 正解① (シク教の歴史) 10

- ①P. 181 の[3]参照。シク教はヒンドゥー教とイスラームを、バクティ信仰およびスーフィズムの共通性を媒介として融合させたもので、ナーナクが創始した。
- ②シヴァ神はヒンドゥー教の最高神の1つ。P. 97 にシヴァ神像を掲載。
- ③イスラーム暦の起源は、ムハンマドがメディナに移住した聖遷にある。P. 122 の年表で622年の出来事を確認。あわせてP. 65 の[3]も参照しておきたい。
- ④唐代の文化は貴族的かつ国際的であり、特に長安の街並みには祆教(ゾロアスター教)寺院・景教(ネストリウス派キリスト教)寺院なども見られた。P. 119 でイメージを高めておきたい。P. 95 にはキリスト教の教義確立過程が掲載されており、景教はエフェソス公会議で異端とされた宗派と確認できる。

問2 正解④ (マウリヤ朝の首都とその位置) 11

P. 98 の地図[A]や[B]を見て、パータリプトラ(b)とプルシャプラの位置は最低限把握しておこう。aはハラッパの位置である。モエンジョ=ダーロと並ぶインダス文明の遺跡があり、P. 96 の地勢図で位置も確認できる。

問3 正解③ (世界史上の軍の指揮官) 12

- ①ハンニバルはポエニ戦争時のカルタゴの将軍である。P. 89 に人物コラムがある。イッソスの戦いはアレクサンドロス大王とアケメネス朝の間で戦われたもので、P. 82 に事項と場所が掲載されている。
- ②蜀は中国三国時代に四川を支配した。P. 113 参照。司馬炎は三国の1つである魏の重臣の家系から西晋を建国した。
- ③P. 249 「チェック」参照。ゴードンは太平天国の鎮圧に向けて常勝軍を率いた。清と条約を締結していた列強は、その利権を守るため清朝側についたことを理解しよう。
- ④P. 247 の年表参照。劉永福の黒旗軍が反仏運動を起こした。鉄騎隊はピューリタン革命時のイギリスでクロムウェルが率いたものである。P. 205 参照。

B

問 4 正解④ (ユダヤ教徒の歴史) 13

ユダヤ人のテーマ史は P. 277 にある。シオニズム運動は同ページ[3]にある通り、パレスチナへの帰還と建国をめざす運動。

- ①バルフォア宣言は第一次世界大戦中のイギリス秘密外交に関連する宣言。P. 272 の[2]参照。ユダヤ系財閥からの融資を見返りに、イギリスがシオニズム運動を支持する内容であったが、フセイン・マクマホン協定などと矛盾しており、パレスチナ問題の契機となった。
- ②P. 73 の[3]参照。モーセはヘブライ人を率いてエジプトを脱出し、十戒を授けられたとされる。ユダヤ教の形式主義を批判したのはイエスであり (P. 94 年表)、隣人愛の思想はキリスト教・新約聖書に反映されている。P. 95 右下の比較も確認しよう。
- ③ユダヤ教の唯一神はヤハウェ。アフラ=マズダはゾロアスター教の神である。P. 77 の[3]で確認するとともに、ゾロアスター教の「最後の審判」の思想がユダヤ教・キリスト教に影響を与えたことも確認しておきたい。
- ④P. 277 の[2]に掲載。この冤罪事件はフランス第三共和政の不安定さを象徴している。ドレフュスを擁護したゾラのような人々と、ドレフュスを糾弾した人々で世論は二分された。

問 5 正解① (商業の歴史) 14

- ①P. 170 年表参照。乾隆帝は対ヨーロッパ貿易を広州に限定した。
- ②P. 125 参照。イスラーム世界の拡大は商業活動の発展と軌を一にしている。各都市にはバザール(スーク)が開設され、商人やウラマーのネットワークによっても布教活動や巡礼も盛んとなった。人々の動きをサポートするため、隊商宿も増加した。
- ③P. 144 の[2]参照。中世ヨーロッパでは、北海・バルト海商業圏と地中海商業圏をシャンパーニュの大都市が結びつけた。
- ④P. 168 の[2]がわかりやすい。明は琉球やマラッカを朝貢交易圏に取り込み、東アジア・東南アジアの海域世界で支配的地位を占めた。

問 6 正解② (シェークスピアの時代の出来事) 15

- ②シェークスピアはイギリスのルネサンスを代表する劇作家であり，P. 192 に人物コラムがある。P. 188 の²で活躍した時代を見ると，トマス=モアが 16 世紀前半，シェークスピアは 16 世紀後半となる。P. 198 の²も参照して，同時代のイギリス政治史に重ねてみよう。トマス=モアは第 1 次囲い込み運動に批判的な眼差しを向けたことで知られる作家で，ヘンリ 8 世の治世と重なる。一方，シェークスピアはエリザベス 1 世の治世で活躍するが，女王の死去とともにテューダー朝に代わってステュアート朝が成立する。
- ③P. 205 の年表でわかる通り，イギリスはステュアート朝のもとでピューリタン革命と名誉革命の激動を経験した。革命の結果，議会政治の確立に向かう同国において，責任内閣制の端緒となったのが，ハノーヴァー朝のジョージ 1 世のもとで組閣したウォルポールである。
- ①④これらは 19 世紀の出来事である。ラダイト運動は，産業革命に伴い危機感を持った手工業者等の「反乱」で，P. 213 に掲載されている。グラッドストンは 19 世紀イギリスの自由主義的改革を担った自由党の政治家であり，アイルランド問題の解決に尽力した。P. 226 で保守党ディズレーリとの政策の相違などを整理してみよう。

C

問 7 正解② (18 世紀のアラビア半島におけるイスラーム改革運動) 16

ワッハーブ運動については P. 243 「用語解説」 参照。ムスリムの原点をコーランとムハンマドに求める復古主義運動の 1 つであり、サ우드家の支持を受けてワッハーブ王国の建国に至った。この王国は滅亡と再建を繰り返しながら (P. 242 年表)、第一次世界大戦後にはヒジャーズをも支配してサウジアラビア王国に発展する。

P. 272 の 3 を参照すると、サウジアラビア王国成立の背景にイギリスの存在があるとわかる。しかし、イギリスは大戦中の秘密外交でハーシム家への支援も約束していた (P. 272 の 2)。このため、第一次世界大戦後のトランスヨルダンとイラクでは、イギリス委任統治のもとでハーシム家の国王が迎えられた。P. 272 の 1 も確認しておきたい。

十二イマーム派はイスラーム・シーア派に属する。P. 125 の 3 でシーア派の特徴をおさえておこう。また、この一派はサファヴィー朝のもとで国教化される。P. 176 の 1 も確認したい。シーア派信仰は現代イランでも国民統合の役割を果たしている。

問 8 正解④ (宗教に関わる出来事) 17

① P. 95 で初期の公会議を整理しよう。エフェソス公会議ではネストリウス派が異端とされた。ウィクリフとフスは中世末期の教会改革運動の中心で、P. 146 の 4 に掲載されている。フスはコンスタンツ公会議の結果、異端として処刑されたが、その理念はフス戦争から、ルターの宗教改革に受け継がれていった。P. 194 の年表も確認しておきたい。

② P. 247 参照。イスラーム同盟はインドネシアで独立運動を展開した。

③ 巻末の「中国王朝の変遷」に民衆反乱の一覧もある。白蓮教徒の乱は清末の反乱。

④ P. 242 の年表で、カージャール朝が英露の圧力にさらされていく過程を確認し、英露協商で成立した 2 国の勢力圏も見ておこう (P. 243 の地図 B)。イラン側の抵抗運動として、バーブ教徒の乱、タバコ=ボイコット運動、立憲革命がある。それぞれの性格等については、P. 243 の右下で整理できる。

問 9 正解② (世界史上の占領) 18

P. 269 の 3 参照。ドイツに対する巨額の賠償請求は、1920 年代前半のヨーロッパ

の不安定要因であった。ドイツの支払い延期に対して、フランス・ベルギーがルール占領という強硬手段に出たことは、象徴的出来事と言える。この危機は、ドーズ案によっていったんは回避されることになった。

朝鮮半島の不安定な状態は、現在の日本にも大きな影響を与えており、その原点となった米ソによる分割占領や、その後の朝鮮戦争についての認識を深めておきたい。P. 296 の¹と²を参照。日本の敗戦後、北緯 38 度線を境界としてアメリカが南部、ソ連が北部を分割占領した。その後の朝鮮戦争でも紆余曲折を経て、北緯 38 度線が休戦ラインとなっている。ここは国境ではなく、軍事境界線である。

第3問 世界史上の都市とその建造物

A

問1 正解① (歴史的建造物) 19

- ①P. 174 の新羅・高麗・朝鮮の比較表で、新羅・高麗の仏教文化の発達を理解したい。P. 175 には慶州の仏国寺も掲載されている。新羅の仏教文化は日本の飛鳥文化にも影響している。
- ②ジャイナ教については P. 97 の2を参照。不殺生の戒律が厳しいことで知られ、現代インドにも信者が見られる。ポタラ宮はチベット仏教の聖地ラサにある (P. 171 に写真掲載)。ダライ=ラマがチベットの政治・宗教の最高指導者となり、清朝からも自治を認められていた。
- ③クトゥブ=ミナールはインドのイスラーム化を象徴する建築物で、P. 180 に写真がある。アフガニスタンからインドに侵入したガズナ朝・ゴール朝に続き、デリーを本拠地とした奴隷王朝時代の建造である。同ページの年表も参照しておきたい。ウルグ=ベクはティムール帝国の君主であり、P. 176 の年表に登場する。首都のサマルカンドに天文台を建設したことでも知られている。P. 177 にサマルカンドの写真もある。
- ④P. 151 にピサ大聖堂の写真がある。中世ヨーロッパの建築様式を P. 150 の2で整理した上で、代表例をビジュアルに確認しよう。万有引力の法則で有名なニュートンは17～18世紀の自然科学の発展を象徴する人物で、P. 206に掲載されている。現代にも通用する科学の発展は、一通り見ておくべきだろう。パスカルはデカルトと並ぶ大陸合理論の哲学者である。P. 207 の3や P. 206 の流れ図を見て、イギリス経験論との対比やドイツ観念論へのつながりを理解しておきたい。文化史も羅列的に記憶せず、前後との関係や政治史との関わりを意識しよう。

問2 正解① (ヨーロッパの河川に関わる歴史) 20

ライン川とドナウ川は古代ローマ帝国の国境線とほぼ一致する。P. 91 の地図E参照。一方エルベ川は、歴史的には西欧世界と東欧世界の境界ととらえたい。例えば P. 135 でフランク王国の東端を見てみよう。P. 142 に聖地回復のための十字軍活動が掲載されているが、広い意味では、イベリア半島でのレコンキスタ、ドイツ人の東方植民、アルビジョワ十字軍も、西欧世界の膨張を示す「十字軍的活動」である。

これらは P. 143 の [3] に詳しい。P. 149 の地図 [B] を見ると、東方植民の結果形成されたブランデンブルク辺境伯領やドイツ騎士団領が確認できる。前者は神聖ローマ帝国の選帝侯の地位も手に入れることとなる。

キエフ公国はノルマン人の移住と拡散の中で建国された。ノルマン人の移動と建国過程を P. 136 の [1] で整理し、P. 141 の [5] でロシア史の中にキエフ公国を位置付けて理解しよう。ギリシア正教徒の国教化によって、現代ロシアにつながる要素が登場した。

問 3 正解④ (世界史上のヨーロッパの君主) 21

- ①フィリップ 2 世はカペー朝の国王で(創始者ではない, P. 148 年表参照), イングランドが大陸側に領有していた領土を奪い, アルビジョワ十字軍も開始して, 王権を強化し, 領土を拡大した。P. 147 の地図 [D] を参照しよう。
- ②P. 198 の [2] 参照。エリザベス 1 世はメアリ 1 世のカトリック復帰政策を否定して統一法を出し, 国教会を確立した。公職を国教徒に限定する審査法を出したのはチャールズ 2 世である。P. 205 の年表で確認できる。
- ③P. 135 の年表参照。クロヴィスはアタナシウス派に改宗することで, フランク王国とローマ教皇が結び付く基礎を形成した。ヴァンダル王国はアフリカのゲルマン国家である (P. 134 の地図 [A] 参照)。
- ④スペイン国王としてのカルロス 1 世は, 南米進出の時代を担った。P. 182 の年表確認。しかし, 彼はハプスブルク家出身であり, 神聖ローマ皇帝位を兼ねた。皇帝としてはカール 5 世と呼ばれる。この点については, P. 198 を参照。退位に際して, 息子と弟に皇帝位や所領を分割委譲したため, ハプスブルク家が 2 系統に分かれた。同ページの地図 [A] で詳細を確認しよう。

B

問 4 正解④ (東欧や北欧の歴史) 22

- ①P. 136 の地図[A]で、マジャール人の移動を確認したい。ゲルマン人に続いてノルマン人・イスラーム勢力・マジャール人などがヨーロッパに侵入した。ハンガリーはマジャール人の王国として大国となる。P. 141 の地図[B]・[C]参照。
- ②カルマル同盟は北欧におけるデンマーク中心の同君連合である。P. 149 の地図[B]を見ると当時の北欧ではドイツ騎士団領が勢力を拡大する一方、北海・バルト海商業圏をハンザ同盟が支配しつつあったことがわかる(P. 144 も参照)。これに対抗して、カルマル同盟やリトアニア=ポーランド王国(ヤゲウォ朝)の台頭を位置付けたい。バルト三国の地域はこの時代、ヤゲウォ朝や騎士団領となっている。
- ③P. 140 の年表参照。ヤゲウォ朝のもとでドイツ騎士団との戦いに勝利をおさめた(タンネンベルクの戦い)ポーランドは中世末期の大国となったが、同王朝の断絶後、選挙王制が行われるようになり、P. 203 の[3]に見られるように、国王選挙への列強の介入とポーランド分割を招いた。ハノーヴァー朝はウィンザー朝への改称を経て、現在まで続くイギリス王室である(P. 344)。成立は18世紀初頭にさかのぼる(P. 205 年表)。
- ④ビスマルクによるドイツ統一過程はP. 228 の年表と地図[A]・[B]で整理しよう。デンマーク戦争でシュレスヴィヒなどを獲得し、プロイセン=オーストリア戦争で北ドイツ連邦を成立させ(統一ドイツからオーストリアを排除)、プロイセン=フランス戦争で南ドイツを併合した。

問 5 正解③ (世界史上の首都) 23

- ①アケメネス朝には行政府の置かれたスサ、儀式用の壮大な宮殿遺跡の残るペルセポリスなど、いくつかの「都」があった。P. 74 の地図[B]で位置を、P. 75 のコラムでペルセポリスの様子を確認しておきたい。クテシフォンはパルティアとササン朝の都であり、P. 76 の地図[A]・[B]で確認できる。
- ②P. 123 参照。コルドバは後ウマイヤ朝の都であり、現スペイン南部に位置しているがイスラーム建築などが多く現存し、異国情緒の漂う地域と言える。サーマーン朝についてはP. 126 の地図[A]を参照。同王朝はイラン系のイスラーム国家であり、隣接したトルコ系のカラハン朝のイスラーム化とトルキスタンの成立に大きな影響を与えた。

- ③アステカ王国については P. 185 に整理されている。マヤ文明からピラミッド建築などを受け継ぎ、コルテスに征服されるまでメキシコを支配した。
- ④アッシリアはオリエント世界を初めて統一した国家である。P. 74 の地図[A]で領域を確認しておこう。都はアッシュルとニネヴェである。テーベはナイル川中流に位置し(P. 72 の地図[A])，エジプト中王国・新王国の都となった(P. 70 の年表)。テーベは神官団の勢力が強く，イクナートンが遷都する一因となった(P. 72 の人物コラム)。

問 6 正解② (第二次世界大戦中の出来事) 24

- ①P. 278 の年表参照。台頭するファシズム勢力に対抗するため，コミンテルンが人民戦線を提唱すると，スペインやフランスで人民戦線内閣が成立した。ブルムはフランスの人民戦線内閣の首相である。第二次世界大戦が始まると，パリはドイツ軍に占領され，ペタンを首班とするヴィシー政権が成立する一方(P. 280 参照)，ド=ゴールの亡命政権が海外からレジスタンスを呼びかけた。
- ②武器貸与法については P. 280 の年表で確認。アメリカの安全保障に重大な影響が考えられる場合は，大統領が他国に武器や食糧を提供できることを定めたもので，イギリス・中国・ソ連に適用された。
- ③P. 280 の地図[A]参照。スターリングラードは大変な激戦地であるが，ソ連へのアメリカの援助も功を奏して，ドイツ軍の敗北に終わった(同ページの年表に掲載)。
- ④連合軍がシチリアに上陸する頃，イタリアのムッソリーニは失脚し(P. 280 の年表)，政権を引き継いだバドリオ政府が無条件降伏した。同ページの地図[A]からわかるように，ヨーロッパでも中立国はいくつかある。スイスのほかにスペインやトルコなどである。

C

問 7 正解② (世界史上の都市) 25

- ①宋代経済の発展については P. 154 でイメージを掴みたい。景德鎮は陶磁器の産地であるとともに、鎮と呼ばれる交通の要所でもあった。宋銭や交子の流通も都市経済を支えており、宋銭は日本・東南アジアでも使用されていた。
- ②リュウベックについては P. 145 参照。この都市はハンザ同盟の盟主である。ロンバルディア同盟は北イタリアの都市同盟であり、神聖ローマ皇帝のイタリア政策 (P. 149 参照) に対抗する意味合いが強かった。P. 148 の年表も確認しよう。
- ③P. 131 の 6 参照。インド洋を経由した交易に伴い、モンバサ等の東アフリカ地域ではスワヒリ文化が形成された。明朝の鄭和の遠征隊が到達したことでも知られる。
- ④イギリス・フランスのインド進出については P. 210 の年表で確認。ポンディシェリ等の拠点を得たフランスは、18 世紀半ばまでに第 2 次英仏百年戦争に「敗北」し、インド経営はイギリスが主導することとなる。

問 8 正解② (宋代の新法) 26

- ①P. 153 の 2 参照。文治主義が採用され巨大な官僚機構が整備された上、契丹・西夏との講和を維持するための出費の増大が重なったことで、北宋の財政は悪化した。これを受けて、財政再建と富国強兵をめざしたのが王安石の新法である。しかし、司馬光など保守派の抵抗にあった。
- ②新法の内容の一覧で確認。市易法は大商人勢力の抑制をめざしている。青苗法と募役法は自小作農の没落防止だから、地主勢力の抑制と言える。
- ③保甲法・保馬法などの強兵策は対西夏・対契丹を想定している。カラ=キタイ(西遼)は、金が契丹を滅ぼした後、耶律大石が西遷して建国したもので、新法改革期とはずれている。P. 152 の年表と地図 B で確認。
- ④P. 166 年表参照。万暦帝時代の明は弱体化しつつあった。豊臣秀吉に対抗した朝鮮への援軍で財政は窮乏に拍車がかかり、東林派と非東林派の党争が激化して中央政府も混乱した。李自成の乱を招いた時代と考えてよいだろう。

問 9 正解② (19 世紀末から 20 世紀初めの中国の貿易) 27

- a 正しい。P. 270 の図「●債務国から債権国へ」を見て、第一次世界大戦を境に

アメリカが債権国となり，国際経済への影響力を拡大したことを確認したい。

- b 誤り。五・四運動については P. 274 の年表参照。ヴェルサイユ条約で山東権益が返還されなかったことに不満な学生や民衆が五・四運動を展開し，中国政府は調印を拒否した。義和団事件は P. 250 の¹。この出来事は南アフリカ戦争と同時期であり，イギリスは中国に派兵する余力に乏しかった。日露が義和団-清朝連合と戦う主力となった背景も理解しておきたい。

第4問 世界史上の人の移動と戦争との関わり

A

問1 正解① (世界史上の人の移動とその影響) 28

スペインの植民地支配に関しては P. 185 や P. 186 を参照。スペイン国王が征服者に土地や先住民の支配を委託するエンコミエンダ制が施行され (P. 186 の 2), 鉱山労働の厳しさや, ヨーロッパ人の持ち込んだ天然痘などの病気によって, 先住民の人口は激減した。ヨーロッパとアメリカ大陸の接触によって生じた動植物などの交流は「コロンブスの交換」といわれる。P. 186 の 1 でその詳細を確認しよう。

問2 正解① (世界史上の反乱) 29

- ① P. 102 の年表参照。広南と黎朝を打倒して, ベトナム初の南北統一を果たしたのがタイソン(西山)の乱である。その後, これを平定した阮福暎によって阮朝が創立された。
- ② P. 109 の 2 で秦の支配体制を確認しよう。中国史上初の「統一」政策は法家主義の採用を含めた強圧的な側面を持っていた。このため, 始皇帝の死後まもなく, 陳勝・呉広の乱が勃発した。
- ③ P. 146 の 1 の図式を見て, 封建社会の変容過程を整理しよう。貨幣経済の発達には賦役・貢納の貨幣地代への転換をもたらした, 黒死病流行に伴う人口減少も重なって, 農民の地位が向上した。封建領主側が反動的政策を採用すると, フランスのジャックリーの乱, イギリスのワット=タイラーの乱など, 農民一揆が相次いだ。農民一揆や黒死病の大流行は, 百年戦争中の出来事である。P. 148 の年表で確認し, 時代の転換点として認識を深めよう。
- ④ ハイドゥの乱はフビライの継承したモンゴルの大ハン位をめぐる争いで, P. 162 の年表と系図を見て確認したい。モンゴル帝国は地方政権を大ハンが緩やかに統合するスタイルであったが, ハイドゥの乱を契機に分裂傾向が強まり, 元朝と各ハン国はそれぞれ事実上の独立国家の様相を呈した。

問3 正解③ (エカチェリーナ2世の事績) 30

エカチェリーナ2世はロシアの啓蒙専制君主として知られる。P. 204 を参照して, 事績を整理しよう。ラクスマンを日本に派遣したほか, クリミア半島など, 黒海沿

岸にも領土を拡大した。アメリカ独立戦争やフランス革命と同時代の君主なので、それぞれにどう関わったかも知っておく必要があるだろう。3回にわたるポーランド分割全てに参加した。

①P. 201 で確認。ルイ 13 世とリシュリユー，ルイ 14 世とマザラン・コルベールという組み合わせは知っておきたい。

②ウィルソンの十四カ条の内容は P. 266 右上に掲載。民族自決や秘密外交に触れている点で，2カ月前に出されたレーニンの「平和に関する布告」との関係がうかがわれる。P. 261 の年表も見ておきたい。

④P. 244 参照。インド大反乱の結果，ムガル皇帝の廃位と東インド会社解散が決定され，イギリス領インド帝国が正式に発足した。イギリス国王(当時はヴィクトリア女王)がインド皇帝を兼ねた。この出来事は保守党ディズレーリ政権の帝国主義的政策のあらわれと言えよう。P. 245 の³も参照。

B

問 4 正解③ (ルワンダ内戦の時期) 31

P. 304 参照。a の時期はまだ、アフリカのほとんどが植民地である。b の時期には「アフリカの年」=1960 年が含まれ、一気に独立国が増加する。c の時期には南部も含めて、アフリカ全体がほぼ独立を達成する一方、民族紛争が多発するようになった。この中にルワンダ内戦も入っている。d の時期には、南スーダンの独立があったほか、ソマリア・西サハラなど未解決の紛争が存在する。また、長期政権に対する不満が爆発して、「アラブの春」と呼ばれる変革運動が起こり、アフリカに新しい潮流も見え始めた(P. 314 参照)。なお、難民の時代に関連して、P. 9 の地域別難民数のグラフも参照。

問 5 正解③ (両大戦間期の出来事) 32

- ①P. 310 の年表参照。ブレジネフは社会主義体制を守ることを優先し、「プラハの春」に対する軍事介入を行った。
- ②社会主義の動きについては P. 255 の 3 参照。イギリスは議会政治の発達が早く、議会を通した漸進的改革をめざす社会主義運動が主流であった。フェビアン協会から労働党への流れは基本事項である。
- ③外モンゴルの独立宣言は清朝滅亡の直前であるが(P. 251 の 5)，中華民国に対抗しつつソヴィエト政権の支援を受けたモンゴル人民共和国の成立は、当然ロシア革命後の戦間期になる。P. 265 の地図 B で確認したい。
- ④第二次世界大戦後の国際軍事裁判については P. 283 の 3 で確認。

問 6 正解② (スペインの歴史) 33

- ①P. 134 の地図 B 参照。東ゴートはイタリアを支配した。スペインを支配したゲルマン国家は西ゴート。
- ②レコンキスタの経過は P. 143 の地図 F・G・H などで整理しておきたい。レコンキスタの終了に合わせるように、スペイン王国が成立する。対峙したイスラーム側の王朝や、トレドでアラビア語の文献がラテン語に翻訳されることで発展した 12 世紀ルネサンス(P. 161 の 3 に詳説)など、関連事項にも注意したい。
- ③ユトレヒト条約の内容は P. 211 にまとめられている。第 2 次英仏百年戦争の中で締結された条約で、イギリスが領土を拡大したほか、スペイン植民地における奴

隷供給権を得て覇権を拡大した。ジブラルタルはイギリス領になるので注意。

- ④P. 279 の³参照。スペイン内戦はファシズム的なフランコ政権とアサーニャ人民戦線内閣の戦いであり，英仏の不干渉もあってフランコ側が勝利した。

C

問 7 正解③ (世界史上の亡命) 34

- ①チベット問題については P. 295 で確認できる。チベットは中華人民共和国内の自治区であるが、その支配体制に対しては人権上の批判が根強い。ダライ=ラマ 14 世はインドに亡命政権を樹立した。
- ②ジェームズ 2 世は名誉革命でフランスに亡命した。P. 205 の年表を確認しよう。バラ戦争は 15 世紀のイングランドの内乱で、有力諸侯の没落をもたらした。こちらは P. 148 の地図 A を参照。
- ③20 世紀を代表する人物の一人であるアインシュタインについては、P. 317 に人物コラムがある。正確な伝記は知らなくても、①②④がはっきりと誤りなので、消去法でも解答は可能だろう。
- ④P. 174 参照。衛満は古朝鮮時代の人物。渤海を建国したのは大祚榮であり、日本から遣唐使と並んで遣渤海使も実施された(地図 D)。

問 8 正解① (20 世紀前半の中国の歴史) 35

- P. 251 と P. 274 の年表で時代順に並べ替えつつ、確認してみよう。
- ③は誤り。鉄道国有化に対する暴動は四川暴動・武昌蜂起である。
- ④は誤り。孫文は南京で中華民国の臨時大総統となった。
- ①は正しい。袁世凱の臨時大総統就任の裏には、孫文との密約があった。この後、袁世凱は自軍閥の拠点である北京で執務する。
- ②は誤り。浙江財閥の支援を受けた蔣介石は共産党追放に向かい、武漢政府と南京国民政府の対峙を経て、国共分離に至った。

問 9 正解④ (冷戦期の出来事) 36

- ①P. 311 参照。ドプチェクはチェコスロヴァキアで「プラハの春」と呼ばれる自由化運動を推進した。
- ②P. 308 参照。アデナウアーは西ドイツの経済復興を指導した。
- ③④P. 287 の 3 参照。冷戦に伴い、東西両陣営で安全保障体制が構築されていくことになる。東側のワルシャワ条約機構を包囲するように、西側の ANZUS・CENTO・NATO・日米安保などがある。CENTO の母体はバグダード条約機構である。